

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I

特集

ソーシャルインクルージョンを目指して

— 済生会地域包括ケアセンターの役割 —



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2026

vol.46

新年号



ソーシャル・インクルージョンを目指して

— 済生会鹿児島地域包括ケアセンターの役割 —

済生会鹿児島地域包括ケアセンター長

済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子



皆様 新年おめでとうございます。

今年は穏やかな年明けでしたが、年頭に当たり、すべての人々が平和に健やかに前進できますようにお祈りしております。

国内外の状況を見ると、安全に暮らせる地球環境で、全ての人々の基本的人権が守られ、平和で健康に過ごせる社会を目指して、人類の叡智が試されていると思われます。

特にわが国は世界一の高齢長寿国であり、支える人口より支えられる人口が多い（人口オーナス）国の健全運営について世界中が注目しており、全国民の自覚と行動が試されています。

近年わが国においては人口構造、社会構造や情報伝達構造等のパラダイムシフトとそれらに起因する諸課題が特に医療介護福祉分野で顕著になっています。

即ち、①超高齢少子社会の結果、医療介護福祉生活ニーズの量的・質的増大の一方で、その分野で働く人材の確保難という課題、②高齢等単身世帯増加と血縁・地縁の脆弱化の課題、③多様性に対する不寛容や極端な個人主義により地域において他者との繋がりや共生協働活動がなされにくく孤立を生み出すという課題、④IT化やDX（デジタルトランスフォーメーション）が推進される一方で、新たな情報伝達技術についていけない高齢者等情報弱者の情報格差課題等が増えています。

上記の課題に対処するためには、ソーシャル・インクルージョン（social inclusion）の共生地域社会をつくるということが必要条件となります。


ソーシャル・インクルージョンは、1980年代にヨーロッパにおこった政策理念であるとされ、インクルージョンは包摂、包含、包容とも訳されます。

その意味は地域や国により少し異なり、ヨーロッパではソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の対立概念として用いられることが一般的です。1970年代のフランスで、移民の増加などによる産業構造の変化から長期失業のために貧困から抜け出せなくなる労働者が多数発生し、この状態をソーシャル・エクスクルージョン（social exclusion）と呼びました。

ソーシャル・エクスクルージョンや貧困などの問題をより広く解決するための解決策としてソーシャル・インクルージョンが位置付けられています。

わが国では2000年12月8日厚生省（現厚生労働省）の「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書において、「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」ことをソーシャル・インクルージョンとしています。すなわち「年齢、障害、環境にかかわらず、すべての人が地域の一員として尊重され、役割を持ち、参加できる社会」という考え方・理念です。

ソーシャル・インクルージョンが国際的に注目されるようになった背景には、社会の多様化と格差の拡大があります。グローバル化、高齢化、情報化が進む中で従来の社会システムでは対応しきれない新たな社会問題が生じています。



わが国でも少子高齢化の進行や労働市場の変化（人材確保困難）、外国人住民の増加などを背景に2000年代から福祉や教育の分野でこの概念が取り入れられるようになり、現代社会においては社会的つながりの喪失や孤立も深刻な問題となっています。

ソーシャル・インクルージョンはこのような複合的な社会問題に対応するための包括的アプローチとして重要性が高まっているのです。

地域福祉の分野では、「地域共生社会」の実現を目指し、高齢者、障害者、子育て世帯など全ての人々が地域、暮らし、生きがい等を共に創り、高め合うことができる地域社会づくりが推進され、地域包括ケアシステムの構築や多世代交流の場づくりなどが各地で展開されています。

ソーシャル・インクルージョンの理念は広く共有されつつあるものの、その実現に向けては各種制度の狭間にある人々の問題、既存の制度では対応できない新たなニーズへの対応、多様性に対する偏見や無理解・自己責任論による排除の風潮などさまざまな課題もあります。

ソーシャル・インクルージョンの実現には、社会のあらゆる場面で多様性を尊重し、一人一人の違いを認め合い、互いに支え合う関係性の構築が不可欠です。

これは単なる福祉政策にとどまらず、教育、雇用、住宅、文化など社会全体に関わる包括的な取りくみが求められます。

すべての人々がこの「ソーシャル・インクルージョン」という考え方を理解し共有し、目標にしたうえでそれぞれの立場で上記課題に具体的に取り組むことが求められます。

済生会は、2020年7月、全ての人が自分に合った生活を各地域でしていけるまちづくりを目指し、「ソーシャルインクルージョン推進計画（まちをつむぐ）」を策定し、だれもが排除されずに地域住民の一員として暮らせるような地域社会づくりに取り組んでいます。

鹿児島地域においては、済生会鹿児島地域福祉センターと済生会鹿児島病院とが一体となり平成30年4月に立ち上げた済生会鹿児島地域包括ケアセンターを基盤として、種々の事業に取り組んでいます。

現在、生活困窮者救済、在宅医療への貢献、医療介護福祉の包括的提供に加えて、ソーシャル・インクルージョンの共生地域づくりへの貢献をめざし活動しています。

本号では済生会鹿児島地域包括ケアセンターのご紹介を特集しますが、利用者様には医療・介護・福祉・看取りの包括的サービスの提供、生活支援、地域と繋がる支援（交流、参画等）を、共生地域づくりに資する活動としては、健康講座、共生地域づくりボランティア育成講座、身寄りのないおひとりさま終活支援プロジェクト、地域行事参画、学生実習やボランティア受け入れ、こども食堂検討などに取り組んでいます。

今後はさらに地域包括ケアセンターのワンストップ総合相談窓口開設や夏祭り開催等地域の皆様の拠りどころ機能を強化していきたいと職員一同頑張っております。

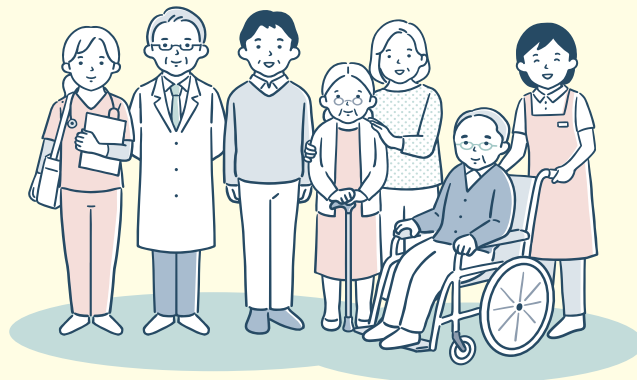
皆様方のご見学や短時間でも福祉の場で働いてみたいと思われる方の参画大歓迎です。

今年もどうかよろしくお願い申し上げます。

ソーシャルインクルージョンを目指して

ー 済生会地域包括ケアセンターの役割ー

超高齢社会を、
ともに生きる社会へ



日本は世界でも類を見ないスピードで高齢化が進んでいます。高齢者人口は増え続け、認知症や独居高齢者の増加、介護人材不足、生活の孤立など、さまざまな社会課題が私たちの身近に迫っています。

こうした変化の中で、いま特に注目されているのが「ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）」という考え方です。これは、「年齢や障害、環境に関わらず、すべての人が地域の一員として尊重され、役割を持ち、参加できる社会をつくること」を意味します。本特集では、高齢化が進むこれからの社会で、施設・住宅・介護・医療がどのように変化し、どんな役割を果たすべきか、そして、済生会鹿児島地域包括ケアセンターの役割をまとめてみました。

1 いま、高齢化社会で起きていること

- 75 歳以上の後期高齢者が急増し、医療・介護の需要が大きく拡大しています。
- 認知症高齢者や独居高齢者、老老介護も増え、家族や地域への負担は重くなっています。
- 一方で、介護・医療人材は不足しており、在宅だけでは支えきれないケースや社会的孤立も深刻化しています。

2 事業所・施設が果たすべき役割

高齢化の進展により、施設や事業所は単なる「ケアの場」ではなく、地域と人をつなぐ拠点としての役割が求められています。

- 地域に開かれた存在として、交流や相談の場をつくる
- 生活を中心に据えたケアにより、その人らしい暮らしを支える
- 医療と介護をつなぐ役割を担い、切れ目のない支援を行う
- ICT やテクノロジーの活用で安全性と効率を高める
- 多様性を尊重し、誰もが安心できる環境を整える

これからの施設・住宅・介護・医療には、単に高齢者を支えるだけでなく、地域全体を支える拠点としての機能が期待されます。事業所・施設は、「生活を支える場」+「地域とつながる場」+「多様性を包み込む場」として、高齢社会の中で欠かせない存在になっていきます。

3 済生会地域包括ケアセンターの役割 ～切れ目のない包括的支援の提供～

① 地域の中の済生会鹿児島地域包括ケアセンター

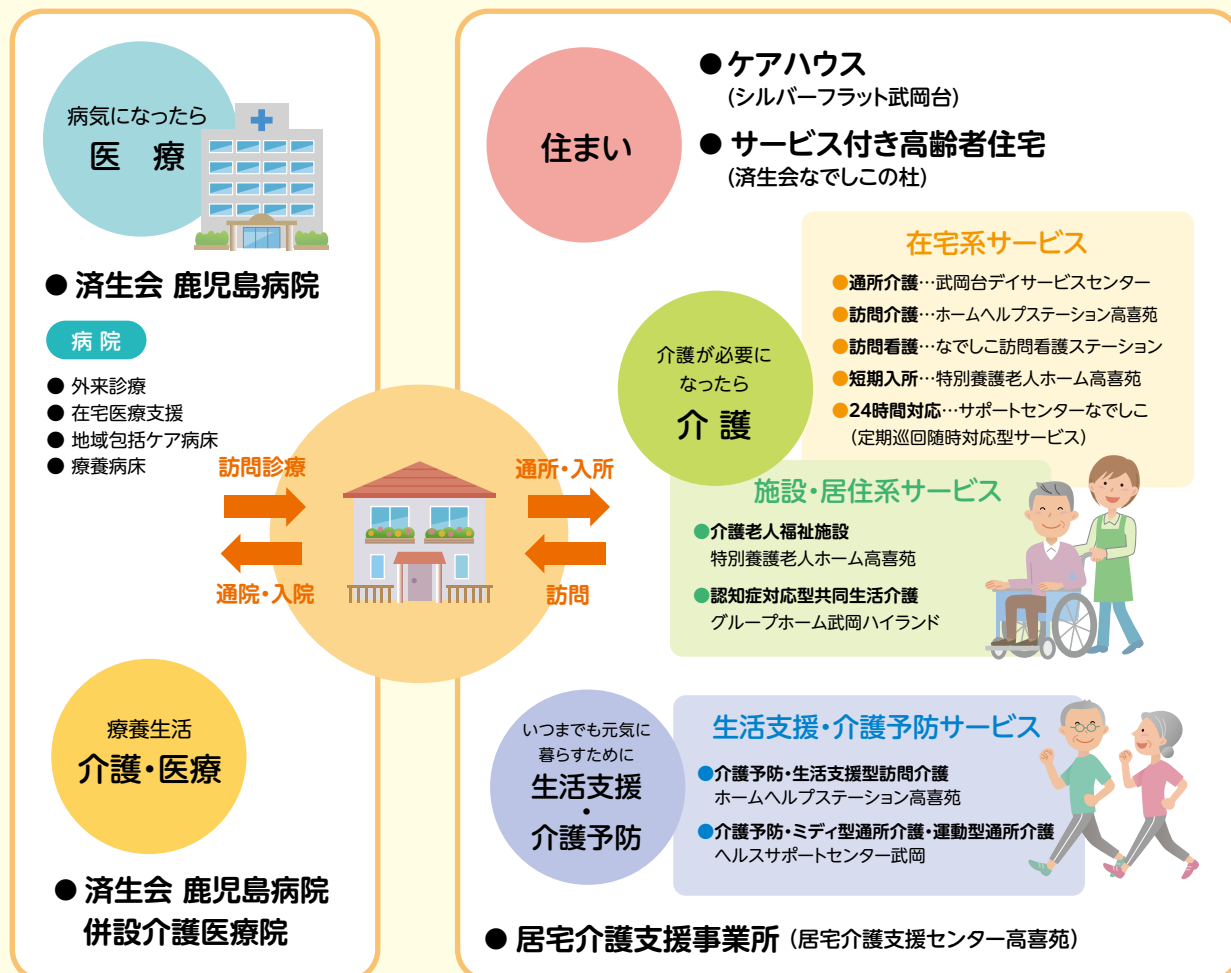
- 平成28年から30年にかけて、ボランティア養成講座を開講
- 令和3年度から、身寄りのないおひとり様終活支援プロジェクト開始。
- 令和6年度『おひとりさま終活支援ガイドブック』発行
- 子ども食堂支援（計画中）
- 地域の学校ボランティアの受け入れや出前講座の実施
- なでしこ無料相談会
- なでしこ健康講座の開催

② 済生会包括ケアセンターの生活支援から医療・介護、看取りまで

センターでは住まい・生活支援・介護・医療を、病院と施設・住宅・介護サービス事業所が連携して提供しています。

—住み慣れた地域で自分らしく暮らすために—

済生会鹿児島地域包括ケアセンター



住まい

- シルバーフラット武岡台（ケアハウス）**：虚弱高齢者のお住まいです。常に職員が常駐しており、食事や入浴環境の提供を受けながら、安心した生活を送ることができます。各種行事や活動が計画され入居者間のコミュニティの場も確保されています。
- 済生会なでしこの杜（サ高住）**：ケアハウスと同様のサービスを受けることができます。また、要介護状態になった場合は24時間の介護サービスを利用することができます。必要な介護サービスや医療サービスを受けながら安心して暮らすことができます。

介護施設

- 特別養護老人ホーム高喜苑**：常時の介護を必要とする高齢者の施設です。生活支援や介護サービスを行い、施設の配置医師や看護師と連携し、必要な医療サービスも提供します。
- グループホーム武岡ハイランド**：認知症と診断された方の施設です。9人の方が一つのユニットで家庭的な雰囲気の中での生活ができます。認知症に特化した専門的なケアを提供します。

介護医療院

- かごしま介護医療院**：長期的な医療ケアと日常生活の介護を一体的に受けられる施設です。「病院」と「介護施設」の中間的な役割を持ち、医療の必要性が高い高齢者が生活の場として長期入所できる施設です。

医療

- 済生会鹿児島病院**：慢性期の疾患の治療（高血圧、糖尿病、心疾患など）や肺炎などの急性期治療、認知症の診断・治療、終末期医療などの治療を目的とし通院や入院を行うことができる病院です。
- 済生会鹿児島病院 訪問診療**：高齢の方や寝たきり、認知症などにより一人で外来通院することが困難になった方へ、医師や看護師が定期的にご自宅や施設へ訪問し診療を行い、療養生活を支援します。

③医療と介護の一体的なサービスの提供

これからの高齢社会では、医療と介護の連携が、日常の暮らしを支える基盤となります。

医療と介護がつながることで、病院での治療後も、在宅や介護施設、通所サービスなど、状態や生活環境に応じた多様な選択肢が整います。

さらに、施設での看取り介護（終末期ケア）が身近な選択肢となることで、人生の最期まで自分らしく、尊厳をもって暮らすことが「特別なこと」ではなくなりつつあります。

医療と介護、そして看取りが一体となることが、これからの高齢社会における“普通の暮らし”を支える土台となります。

※【看取り介護】

看取り介護とは、終末期にある人が「無理な延命治療」ではなく、「身体的・精神的苦痛の緩和」「尊厳の保持」「本人と家族が穏やかに過ごす時間の確保」を目的としたケアです。

住み慣れた生活環境の中で、最期を病院ではなく、「施設で」「慣れた環境で」「家族やケアのスタッフとともに」という選択をする人も少なくありません。

～安らぎの場で見守る「その人らしい最期」～

特別養護老人ホーム高喜苑で看取り

A様は、高齢で入退院を繰り返され、ある入院時に「積極的な治療は困難、終末期」との診断を受けました。当時、ご本人から直接の意思確認は難しい状況でしたが、以前に「病院ではなく施設で最期を迎えたい」というご本人の言葉があったことから、成年後見人・医師・施設スタッフ（看護師・ワーカー・栄養士・ケアマネ）ら多職種チームで話し合いを重ねました。拒薬や食事拒否といった状況に対し、何がA様にとって最善かを検討した結果、施設内でのケア継続、そして看取りを行うことに。医師も同席する毎週の会議（カンファレンス）20回を経て、最後まで穏やかに、施設での最期となりました。



～慣れた暮らしの中で再び生きる意欲を～

済生会なでしこの杜での看取り

B様は、ケアハウス時代に多くの友人に囲まれ、お話好きで明るい方でしたが、入院を機に体調が急変し、生活や食事への意欲（口から食事をとる）が激しく低下。医師からは「病院での看取り」の話がありました。しかし、ご本人の「家に帰りたい」、ご家族の「できる限り支えたい。ただし無理な延命は望まない」という思いを尊重し、ご家族、主治医を交えた多職種（MSW、訪問看護、ケアマネジャー、定期巡回訪問介護・住宅職員）で話し合った結果、病院ではなく「なでしこの杜」での生活継続が選ばれました。施設で、訪問診療や訪問看護、定期巡回訪問介護の支援を受け、ご家族・職員・他の入居者とのなじみある関係の中で過ごす日々のなかで、B様は再び「生きよう」という意欲を取り戻されました。寝たきりで言葉も短く、食事ままならなかった時期がありましたが、少しずつ口から食べられるようになり、入居者との会話を楽しむ場面も戻りました。その後、心不全の症状が現れましたが、ご逝去されるまで、入院時のような意欲低下は見られず、穏やかに最期を迎えられました。



まとめ 「その人らしい暮らしの最後」を支える、“施設での看取り”が果たす役割

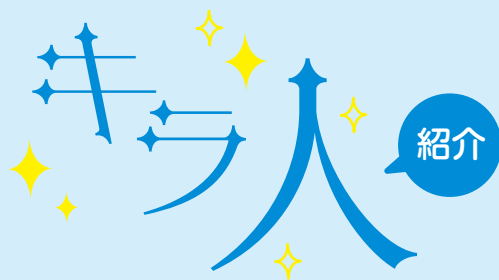
A様、B様の事例は、医療と介護、施設ケア、家族支援が一体となったとき、たとえ最期であっても、その人らしく、穏やかに過ごすことができることを教えてください。住み慣れた環境と、顔なじみの人々とのつながりが、安心と心の安らぎを生む — 精神的な支えとして大きな意味をもっています。多職種が連携し、医療とケアを統合し、その人らしい最期を支える土台となり、無理な延命を目指すのではなく、本人やご家族の意思を尊重し、「尊厳ある死」「自然な最期」を叶えるための選択肢となります。近年では多くの介護施設が看取りに対応するようになり、単なる例外ではなく、社会全体の「当たり前の選択肢」のひとつとして定着しつつあります。

済生会鹿児島地域包括ケアセンターでは、これからも「尊厳と安心」を大切に、入居者お一人おひとりの思いに寄り添うケアを目指してまいります。

4 おわりに ～だれもが安心して暮らせる社会へ～

ソーシャルインクルージョンの考え方は、これからの高齢社会にとって避けて通れないキーワードです。施設や事業所は、単に介護や医療を提供する場ではなく、地域と人をつなぎ、誰もが尊重される社会をつくる拠点としての役割を担っています。

私たちは、“支えられる側”も“支える側”も分けない、みんなで支え合える社会を目指して取り組みを進めていきます。



センターで活躍するシルバー世代

私達の施設には、長年の経験や努力を—

龍野さんは、介護保険が始まる以前の在宅介護支援センターの相談員やデイサービスセンターでの介護職員の経験があります。定年後は、現在のシルバーハウジングで支援員として業務に就いています。私たち後輩からすると、「若さの秘訣は？」とお尋ねしたくなるほど、いつもはつらつとご活躍されています。

今回、福祉センターで活躍されているシルバーの方々はたくさんいらっしゃる中、経験年数の長い龍野さんに、仕事のやりがいと長きに渡り活躍される秘訣を伺いました。

Q 現在のお仕事の内容を教えてください。

- A シルバーハウジングに登録されている26室の方々がお変わりなく生活されているか安否確認や相談対応を行っています。平均年齢は80歳代で高齢者や障害をお持ちの方がお住まいです。独居で身寄りのない方もいらっしゃいます。支援員は、その方々に事務所から毎朝お電話をして、お変わりがないかお伺いしています。システム的には、お部屋が留守になると不在であることも確認できます。

Q お仕事の中やりがいと大変だなと思われることがありますか。

- A お話をすることがもとめ好きなので、日常の些細なお話も楽しんでさせていただいています。皆さん、おひとり暮らしなので、訪問するととても喜んで話をしてくださいます。ただ、安否確認の際にお電話に出られないと「何かが起こったのか？」と大変不安になります。これまでも、お部屋で倒れておられた方を見つけて、救急搬送をしたケースもあります。責任のある仕事だと思っています。

Q 健康の秘訣は何ですか

- A 今は、近くの公民館でヨガをしています。年齢に関係なく楽しく取り組んでいます。

龍野君子さん

1943年10月8日生まれ
ひつじ年 O型
[座右の銘]
元気に健やかな毎日！

訪問の風景

棟の上層階まで足軽く上り訪問をする龍野さん。訪問先のご利用者の顔をみて、時には「かごしま弁」を交えながらお話をされ、ご利用者の方は「こうして、時には来てくださってお話ができるのはうれしいです。そして、なにより安心しています。」と話されていました。



これからも、ますますシルバー世代の方々のご活躍を期待しています。

シルバーハウジングとは・・・

鹿児島地域福祉センターでは、鹿児島市から委託を受けて、平成29年2月から「生活援助員派遣事業(シルバーハウジング)」を行っています。シルバーハウジングは、高齢化が急速に進行する高齢社会において、高齢者等が住み慣れた地域で、自立して安全かつ快適な生活を営むことができるように、自治体や福祉事業所等の密接な連携のもとに、生活相談や緊急時の対応などの福祉サービスを受けられる住宅のことです。

現在、生活援助員の職員3名体制で、県営住宅(シルバーハウジング)の集会室内にある事務所で日中1名常駐し、入居者が安心して生活できるよう相談や安否確認等の支援を行っています。17時以降の緊急時対応(17:00～8:30)については、済生会施設の職員が引継ぎ、24時間体制で入居者が安全に安心して日常生活を送れるように支援しています。

異文化交流



済生会鹿児島地域包括ケアセンター

令和7年11月10日から11月14日の5日間にわたり、インドネシアの国立大学ティボネゴロ大学の看護学生3名を済生会鹿児島地域包括ケアセンターの施設や事業所、病院、介護医療院の実習生として迎えました。3名の学生は鹿児島大学医学部保健学科特別聴講学生で、日本の地域包括ケアシステムの在り方について理解を深めることを目的とし、施設やサ高住・介護サービス事業所で、日本の介護保険や福祉サービスの在り方、利用者への支援の内容、介護・福祉と医療との連携などについて学習されました。交流ではやはり、言葉の壁が大きく、コミュニケーションは、日本語と英語、英語からインドネシア語と鹿児島病院の職員の通訳や翻訳アプリを活用、身振り手振りで行いました。また、お国柄1日2回の『お祈りの時間』を大変大切に過ごされていました。

利用者の方から「孫が、インドネシアに行っているのよ」と、レクリエーションを一緒にする中、とても良い交流の時間となったようでした。私たち職員も、とても熱心に実習や学習をされる他国の学生さんに、とても良い刺激をいただく時間となりました。



感染対策研修会



感染症予防対策委員会

令和7年11月21日、センター全職員を対象とした感染対策研修会を、済生会鹿児島病院の感染管理認定看護師を講師にお迎えして実施しました。

令和元年に新型コロナウイルス感染症が発生し、翌年には世界的な大流行となりました。いわゆるパンデミックの中で、私たちは高齢者だけでなく、すべての人が日常的に感染対策を行う生活を余儀なくされました。新型コロナウイルスは令和5年5月に感染症法上の分類がインフルエンザと同じ「5類感染症」へと変更されましたが、現在も感染予防に注意が必要な状況に変わりはありません。

今回の研修では、高齢者施設や関係機関で予防策が特に重要となる、コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、MRSAなどの感染症について、標準予防策・感染経路別予防策・環境整備のポイントなどを学びました。また、どのような感染症であっても、手指衛生や個人防護具（PPE）が非常に有効であること、自分自身を守ることが周囲の方々を守ることにつながるという意識と知識を再確認する良い機会となりました。



定例のご利用者満足度調査を実施しました

第17回 利用者満足度調査 集計結果

【実施対象者】福祉センターサービス利用者若しくはその家族

【実施期間】令和7年7月10日～令和7年8月31日

【回収方法】返送（返信用封筒にて）

ご利用（入居）者及びご家族の皆様へ

当センターが皆様に満足いただける福祉サービスを提供することを目的に実施した「第17回 利用者満足度調査」にご協力頂きありがとうございました。

お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望につきましては、職員で共有し改善に向けて取り組んで参りますので、今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

済生会鹿児島地域福祉センター 所長

1 調査基本情報

	人数
調査票配布数	535
調査票回収数	308
回収率	56.6%

2 利用者基本情報

	人数
男	88
女	190
無回答	25
合計	308

3 設問別 選択肢選択件数

【共通設問】

	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
問1	0	1	44	45	210	3	303
問2	0	1	31	48	220	3	303
問3	2	2	32	44	219	4	303
問4	0	2	36	42	214	9	303
問5	0	3	38	58	198	6	303
問6	5	2	38	59	193	6	303
問7	1	2	30	44	215	11	303
問8	1	1	42	53	199	7	303
問9	5	7	57	44	181	9	303
小計	14	21	348	437	1,849	58	2,727

4 評価（満足度）

【共通設問の評価】

※「共通設問の評価」の算出方法
については次のとおり

$(\text{④と⑤の合計}) \times 100$

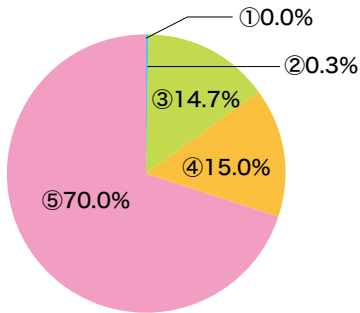
$(\text{合計} - \text{無回答数})$

85.6%

【第17回 利用者満足度調査 質問別結果】

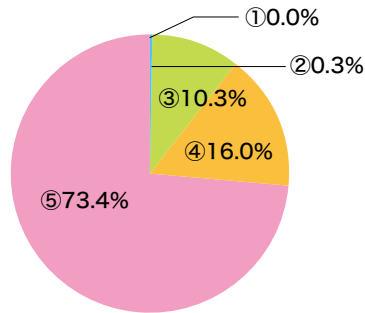
①良くない ②やや良くない ③普通 ④ほぼ良い ⑤良い

問1 職員の身だしなみは適切ですか？



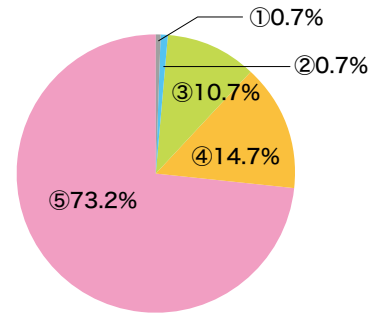
満足度 85.0% 不満足度 0.3%

問2 職員の言葉使いは適切ですか？



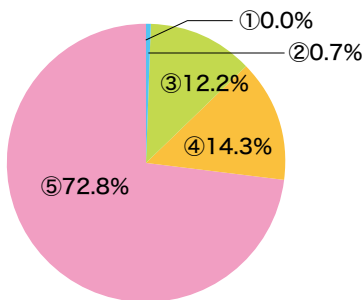
満足度 89.4% 不満足度 0.3%

問3 職員はご利用者及びご家族のプライバシーに配慮していますか？



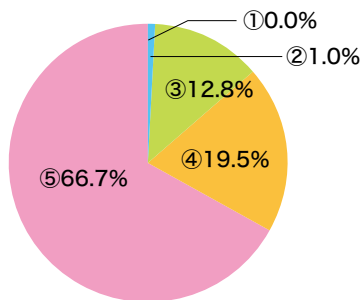
満足度 87.9% 不満足度 1.4%

問4 職員はご利用者及びご家族の考え方や意向を尊重し要望を丁寧に聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



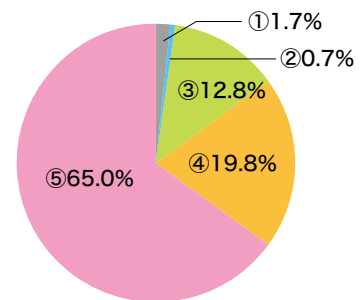
満足度 87.1% 不満足度 0.7%

問5 職員又は法人窓口はご利用者及びご家族の不満や要望を丁寧に聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



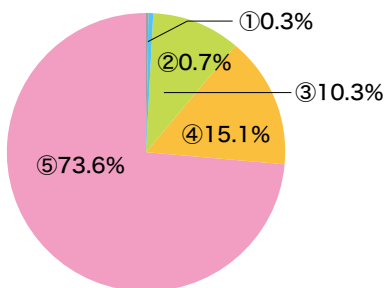
満足度 86.2% 不満足度 1.0%

問6 職員はお互いに連携が取れていて情報が良く伝わっていますか？



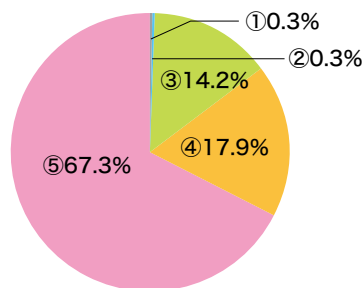
満足度 84.8% 不満足度 2.4%

問7 職員はご利用者の体調不良や怪我等の事故が起きた時に適切な対応をしてくれますか？



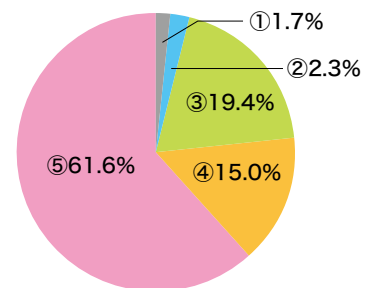
満足度 88.7% 不満足度 1.0%

問8 サービスの利用開始(入居)時に契約書やサービス内容について詳しく説明を受けましたか？



満足度 85.2% 不満足度 0.6%

問9 今利用している施設やサービスを友人や知人に紹介したいと思いますか？



満足度 76.6% 不満足度 4.0%

今回の調査を
振り返って

毎年、実施しております“ご利用者満足度調査”も今回で17回目となりました。毎年ご協力を頂きありがとうございます。今回の調査では、問2の「接遇」に関する項目が高い結果となり、今後も継続していけるように努めてまいります。逆に問6の「職員間の連携」に関する項目が、満足度が低く、話した事が伝わっておらずに不安や不信感を感じている方がいらっしゃるということをしっかりと受けとめ、改善できるように努力してまいりたいと思います。今後もご利用者、ご家族の思いを大切に安心してサービスをご利用いただけるように、各事業所や職員一同サービス向上に努めて参りたいと思います。

〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

済生会鹿児島地域包括ケアセンター
済生会鹿児島病院・かごしま介護医療院

〒892-0831 鹿児島市南林寺町1-11

TEL 099-223-0101 FAX 099-227-4790

済生会鹿児島地域包括ケアセンター
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8250 FAX 099-284-8252

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 FAX 099-283-6871

済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 FAX 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 FAX 099-283-4733

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

なでこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

編集 後記

新年あけましておめでとうございます。

皆さま、よい年明けをお迎えのことと存じます。

年末となり仕事納めを迎え、現在最後の編集に取り組んでおります。鹿児島市内では、昨日・今日と今シーズン初めて、朝の車窓が霜で真っ白に凍り付いているのを見かけました。やっと冬の寒さを実感した朝となり、季節の移ろいを感じています。本年が皆さまにとって、大きな気象災害に見舞われることなく、穏やかで実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

